

北海道サッカー協会 各位

## 北海道レフェリーアカデミー第3回 事業報告

報告者：高橋 海星（函館）

<日時> 平成31年4月28日（日）・29日（月）

<場所> 北海高校グラウンド・とわの森三愛高校グラウンド・札幌サンプラザ

<参加者> インストラクター：今川 一輔 氏・古曾部 統太郎 氏・岡田 渉 氏  
三上 正一郎 氏・中元 徳寿 氏（28日のみ）

審判員：小松 祐也・高橋 海星・田口 平蔵・牧田 隆史

オブザーバー：山口 麗弥 氏（2級審判員）・工藤 圭祐 氏（2級審判員）  
宗像 瞭 氏（RAC1期生）・岡 聖人 氏（2級審判員）

4月28日

8：15 集合

9：30 試合実践① 北海道科学大学高校 VS 札幌東豊高校（牧田）

自己分析→串刺しにならない角度と適切な距離感を意識し、ファウルを取り逃がさないことをテーマに試合に臨み、概ね違和感なく進めることができた。ただ、マネジメントとして、選手と向き合って話すこと、選手の意図を感じる事がまだできていない。表情、行動などから、読み取れるようにしていきたい。

INS分析→審判員、選手から任されている立場として、最善の判断をするためにいかに手を抜かずに選手のために走るかという考えが足りなかった。笛の強さや注意の仕方などにより、選手やスタッフ、周りで見ている人々がどのように感じるかを考えながらマネジメントをしていくのが良い。



11：00 試合実践② 札幌静修高校 VS 札幌あすかぜ高校（田口）

自己分析→判定に関して、1試合通して的確で一貫することができた。特に警告となる判定やPKの判定も根拠を持ち、自信をもって判定することができた。マネジメントに関して、負傷者の対応が複数回あった中、頭部への負傷判断の仕方を工夫する必要があった。

INS分析→警告、PKの判定は妥当な判断であった。また、後半のアドバンテージは的確であった。頭部へのダメージはのちに影響することも考えられるので、問いかけの内容には注意が必要であった。

12：30 試合実践③ 北海高校 VS 札幌啓成高校（小松）

自己分析→この日の自分のテーマであった、空中戦での競り合い時のボールの優先権と手の反則の見極めができた。ポジショニングでは、ショートパスで繋ぐチームのパスコースに入ってしまう事があり、どこに位置したら良いかわからなくなってしまった。

INS分析→目標に掲げている空中の事象については良かったが、サイドステップを多用するとよ

りスムーズに見える。チーム戦術などの情報をいち早くインプットして理解した上でポジショニングを考えたい。

#### 14:00 試合実践④ 札幌英藍高校 VS 文教大明清高校（高橋）

**自己分析**→良い角度と距離を意識して試合に臨み、概ね達成できた。判定についても概ね選手やチーム役員に受け入れてもらえた。ただ、ケガ人の対応が遅く選手に不信感を与えてしまった場面があり、負傷の箇所や程度を正しく判断し、素早く対応することで選手が試合に集中できる環境を作ることができたと思った。

**INS 分析**→カウンター時のダイナミックな走りは良かったが、事象がクリアに見えているときにスピードを落としてしまっていて何かあった時の対応が遅れてしまう。頭部付近の接触は状況よりも止めることを優先して素早い対応が大切。そのためには、レフェリーの本来の役割や目的を忘れずに試合に臨む必要があるのではないかと。

#### 15:20 移動・夕食

#### 16:45 審判員プレゼン

3月23日（土）・24日（日）に堺で行われた全体研修で学んだことを1人10分程度で発表した。

#### 17:40 試合振り返り 担当：三上 INS

試合実践④のフィードバックと試合の映像を使い、全体で分析、共有を行った。1つの試合をアカデミー生4人で振り返ることは初めてで、一つの意見だけでなく、より多くの意見や考えを知ることができ、とても有意義な時間となった。

#### 18:30 英会話 担当：中元 徳寿 氏

前回の宿題の確認、本田圭佑選手が記者会見で話したことのリスニング、試合を運営する上で必要な英語のフレーズを使い、デモンストレーションを行った。リスニングを経験したことで、相手が何を伝えたいか理解することは、会話を成立させる上で重要なことであると感じた。2月、今月の2回で経験したスピーキングとリスニングを生かして、これからの学習につなげていきたい。

#### 19:50 諸連絡・解散



4月29日

#### 8:15 集合

#### 9:30 試合実践⑤ 札幌啓北商業高校 VS 札幌北高校（牧田）

**自己分析**→前日の試合で足りなかった点として、「サイドをえぐってクロスをあげようかというときの自分のポジショニングの視野」ということがあり、中外の争点の両方を見るポジショニングを意識した。だが、外側から見ようとするあまり、中の争点から遠くなり、はっきり見えないということがあったため、どちらの争点がより重要かということをもっと考えてポジショニングを決めなければならないと感じた。

**INS 分析**→FK のマネジメントのときに何を監視するのか、改めて整理するとよい。（ボールの静止、壁を離す、中の争点の監視）注意をする際は、なるべく笑顔を見せず、「この行為はダメなんだ」ということを理解してもらうためにも、厳しく接しなければならない時がある。

### 10:55 試合実践⑥ 札幌国際情報高校 VS 札幌清田高校 (田口)

**自己分析**→判定に関して、PKの判定や警告となるラフプレーの判定も適切に対応することができた。ゴールキーパーが負傷交代する事象が起きたが、主審がリードし即座に対応することができたのでよかったと思う。副審とのファウルの差し違える場面があったが、事前の打ち合わせにおいて準備が足らなかったの今後改善する。



**INS 分析**→繰り返しファウルした選手やゴールキーパー周辺のポジション争いの際に注意する方法やマネジメントに工夫する必要がある。ゴールキーパーの負傷では選手をうまくリードし、スムーズな交代が出来ていた。また、控えゴールキーパーがいない状況下でも落ち着いた対応ができていた。アドバンテージの部分では攻撃側がチャンスとなりえない状況だったため、シンプルにフリーキックで対応するべきだと考える。

### 12:20 試合実践⑦ とわの森三愛高校 VS 千歳高校 (高橋)

**自己分析**→前日のフィードバックを受け、選手がサッカーに集中できる環境を提供するということを意識して試合に臨んだ。判定も試合を通して受け入れてもらい、選手がサッカーに集中できる試合を提供するために必要なことを少し理解できた。より選手がサッカーに集中できるためには、次に何が起こりそうか予測し、早めのマネジメントや正しい判定を追求していきたい。

**INS 分析**→判定に関して、グレーゾーンの判定があり本当にファウルかどうかを見極める必要がある。後半20分過ぎから走らされているように見えた。本当に選手のための走りなのか。マネジメント時には選手への軽いタッチがあった。余計なトラブルを引き起こさないためにも選手に触れないようにすべき。

### 13:45 試合実践⑧ 立命館慶祥高校 VS 札幌日大高校 (小松)

**自己分析**→この試合ではマネジメントが上手くいかなかった。FKの遅延では番号を呼び下げさせたが、繰り返す選手には警告も考えなければならない。ファウルも同様で繰り返す選手には注意や警告が必要。アドバンテージを積極的に適用したが的確ではなかった。

**INS 分析**→遅延について、声をかけても下がらない場合は、次の段階もイメージして対応すべき。アドバンテージの適用は改善が必要である。利益とは？チャンスとは？整理をしっかりすること。

15:00 試合振り返り

15:50 諸連絡・解散

